

令和7年度 自己評価表 (最終)

中期経営目標	短期経営目標	具体的な取組・方策	評価指標	現状値	各年度における目標値および実績値			評価 (自己評価の結果)	改善策
				令和6年度	令和7年度	令和8年度	令和9年度		
主体的に考え、判断し、行動する力を育てる。	○進んで学び、粘り強く挑戦する力の育成 ○自治的活動の充実	<ul style="list-style-type: none"> 自己調整力を育てる授業の工夫・改善を行う。 各学級において「話し合い活動」の充実を図る。 	自己調整力に関する児童・教師の意識調査	—	目標 4段階で平均3以上	3.2以上	3.5以上	<p>児童質問紙と教師質問紙共に、上半期に比べて実績値をあげることができた。特に、「問題を発見して、課題を設定する力」は児童・教師共に意識が高まった。また、自己調整力が高まった場面を授業内で多く見ることができた。</p> <p>学級集会だけでなく、国語科や生活科、総合的な学習の時間においても話し合い活動を位置付け、計画的に取り組むことができた。話し合い活動を通して自分の考えを発表したり友達の見聞いたりする経験を積み重ねることができた。だが、意見の合意に時間がかかる、発言力のある児童の意見に流されるという様子が見られた。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 自己調整力が高まった児童像を児童と共有する。 資質・能力を焦点化した授業改善を継続的にやっていく。 児童が粘り強く挑戦できるよう、挑戦できる場の提供や挑戦しようと思える声かけを行っていく。
			発達段階に応じた児童主体の話し合い活動の年間実施回数	—	目標 低1回 中2回 高3回以上	低1回 中2回 高3回以上	低1回 中2回 高3回以上 内容が充実している。		
豊かな人間性を培い、たくましく生き抜く力を育てる。	○豊かな心を育む教育の充実 ○心身の健康のための取組の充実	<ul style="list-style-type: none"> 他者との関わりを通じた自律を促し、レジリエンスを高める。 学校生活を楽しみ、よさを伸ばし合える集団づくりを行う。 楽しく運動に取り組む児童を増やす。 児童が自ら進んでやってみようと思う運動を紹介する機会を設定する。 	児童意識調査(学校が楽しい・自己肯定感)	89%	目標 92%	95%	100%	<p>学校へ行くのが楽しい。 90.1% (-1) 自分にはよいところがある。 93.7% (+2) 自分のよいところをまわりの人から認められている。 92.8% (+5)</p> <p>体育朝会で、リズム体操を紹介し、運動を楽しむことができる動画をClassroomにアップし、継続して取り組んだ。また、業間運動の内容もリニューアルし、運動に抵抗感のある児童でも参加しやすく、楽しく運動できる雰囲気が生まれた。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 残りの1割の児童の支援を組織的にを行い、より丁寧に指導する必要がある。個々の児童が不安や孤立を感じる場面を把握し、学級内での役割づくりや交流の機会をさらに充実させていく。また、児童が互いのよさを認め合う場面を意図的に設定し、継続的に自己肯定感を育む仕組みや組織を強化する。 一定の成果はあったものの、日常の運動習慣につながりにくかった。今後は体育朝会で紹介したリズム体操を体育や朝の会等で各学級が日常的に取り組む必要がある。
			運動を楽しむ児童の育成を意図した体育朝会等の回数	1回	目標 各学期1回以上	各学期2回以上	各学期3回以上		
地域と一緒に、安全・安心な学校づくりを推進する。	○コミュニティ・スクールの取組推進	<ul style="list-style-type: none"> 学校地域協働活動により、地域を愛する心を育てる。 課題・ビジョンの情報を共有し、明るく楽しく活気のある学校づくりをすすめる。 	めざす学校像に対する児童・教職員・地域(学校運営協議会委員)の肯定的評価	—	目標 93%以上	95%以上	100%	<p>下半期学校アンケートで、「誇れる学校」についての数値が低かったが、3学期始業式の校長からの「ミッション」や、教頭作成の「中町小のすてき」掲示、各学年での声かけや具体的な姿の共有による意識づけもあつてか、下半期は3項目とも91%以上となり、3項目平均も微増した。</p> <p>登校時の見守りを主任児童委員さんや時間外に教員が行っている。継続して他の協力者を呼びかけていく。行政への呼びかけにより、通学路表示がなされた。</p>	
					実績 3項目の平均 児童93.7% 教職員100% 保護者92.4% 地域86.7%				